観光ボランティアガイドつるが広報誌　第３８号　　令和４年１月１日発行

ゆりかもめ
yurikamome

滋賀県との県境の柳ケ瀬山に残る玄蕃尾城址。
その主郭の一角の櫓台に自生するコナラの木。

新年明けまして　おめでとうございます

昨年上期のガイド活動は、コロナ禍の影響で低調な状況が続いていましたが、下期に入りコロナが少し治まる気配となり、待ち構えたように多くの子供たちが教育旅行に訪れてくれました。子供たちにとっては久しぶりの楽しい行事、友達との思い出創りの大切な機会であり、私達にとっても、ガイド活動を通して子供たちの笑顔や元気にふれあえる嬉しい機会でした。一般のお客様も増えつつあり、ガイド活動に弾みをつけてくれることを期待しつつ、新たな事も取り込んで活動してきました。

私たちが大切にしている魅力あるガイドへのチャレンジとしては、自主的な研修会などの開催や外部研修への参加は元より、これまで集めた様々な資料の整理など学習環境の充実や当会が平成11年に発行した図書「みなと・つるが・いまむかし」の抜本的な改訂作業にも取り組んでいます。また、市民や団体・事業所向けの出前講座「敦賀はみどころ満載」を積極的に行っています。次年度に向け「魅力あるまち歩きコース」の検討にも着手し、その他、取材対応や観光コース開発についても積極的にサポートを行うなど、幅広い活動を展開しています。

本年も、ガイド活動を主軸としながら、自主活動と他主体との協働、今できる活動と将来に繋げる活動など、多面的な視点を持ち積極的な事業展開を進めて参ります。当会の活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

敦賀市地域おこし協力隊　西山綾加 さん

はじめまして、２０２０年10月から敦賀市で地域おこし協力隊をしています 西山綾加です。

地域おこし協力隊とは、２００９年から総務省が作った移住・定住促進のための制度で、１年以上３年未満という定められた期間、特定の地域に関わりながら活動をするというものです。私は、岐阜県出身で、福井に来る前は東京で暮らしていました。福井市で長期滞在をしていたことをきっかけに敦賀での募集を知り、敦賀市の第一号地域おこし協力隊になりました。

私は「よそ者視点での情報発信」を活動としており、ＳＮＳやフリーペーパーの制作を通して敦賀での暮らしを発信しています。活動も２年目に突入しましたが、この制度を活用するにあたってとても意識していることがあります。それは「自分自身が敦賀での暮らしを楽しむこと」です。

そもそも、敦賀には素晴らしい歴史や文化がたくさんあり、多くの方が暮らしています。それなのに「地域おこし」という言葉からはなんだかあまり良いイメージを持ちません。それよりも「地域たのしみ隊」でありたいと思うのです。自分自身が心から敦賀での暮らしを楽しみ、その様子をお届けしていくことが、敦賀の魅力を伝える一番良い方法だと思っています。

INFORMATIONs

「敦賀の古代を探る」展のポスター

☆敦賀市立博物館

発掘調査成果展「敦賀の古代を探る」令和３年12月８日～令和４年３月15日（火）
令和２年に発掘調査を行った、公文名遺跡（松ノ木海道地区）を始め近年発掘した古代の遺跡の調査成果が展示されています。

刀剣資料公開展　令和４年１月18日（火）～３月15日（火）
敦賀市立博物館が所蔵する郷土ゆかりの刀剣が期間中３期に分けて紹介されます。郷土に縁りのある優れた刀をじっくり御鑑賞ください。

☆福井県立歴史博物館

パネル展　「戦国越前の謎を解く」　令和４年１月３日（月）～５月17日（火）
～明智光秀（「青の１０年」）・一乗谷朝倉氏遺跡編～
また、一乗谷朝倉氏遺跡特別史跡指定50周年、特別名勝指定30周年の記念パネルも展示されます。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス（敦賀観光案内サイト漫遊敦賀）からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167
FAX　0770－22－8197
https://www.turuga.org

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが　TEL　0770－21－0056
敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167

編集後記

表紙の写真は玄蕃尾城跡の主郭の一角の櫓台に自生しているコナラです。日時を変えて何度か撮影。落葉したコナラが柴田勝家、枝が髭に見えて「よう来たな」と声をかけてくるようでした。

コロナ禍でアウトドアの人気も相まって山城跡も人気で撮影に登った日は、いつも登山客と遇いました。乳児を抱いたご夫妻とは「お子さんが大きくなったらまた来て下さい」と、年配のご夫妻とは「全国に山城沢山あります、元気にお二人で制覇して下さい」などと会話していました。

明治11年10月、明治天皇北陸御巡幸、敦賀行幸の折、疋田を経由して「刀根越え」され木之本に向かわれました。氣比神宮の祭神である仲哀天皇、神功皇后も越えたといわれています。

明治13年４月、敦賀と長浜間の鉄道工事に着工し、明治15年３月、柳ケ瀬トンネル区間を除き部分開業します。乗客はトンネル手前で降車、峠を越えていました。峠から少し登れば玄蕃尾城址、柴田勝家を偲び山頂に向かった乗客はいたのでしょうか。（将）

発行者：観光ボランティアガイドつるが　連絡先：〒914-0079 福井県敦賀市港町1-25 敦賀鉄道資料館　TEL・FAX 0770-21-0056

観光スポット紹介

「敦賀」のみどころ ① 城跡

敦賀の地は、縄文時代に始まり、近世から近代に至るまで、それぞれの時代に湊・港を通じた大陸や国内各地との交易、街道を通じた畿内との往来、鉄道による発展などまさに結節点としてそれぞれの時代に様々な歴史が積み重なり、市内各所に魅力ある「みどころ」が関連しながら面の様に広がっています。そのような中から、今回は戦国時代のみどころとして敦賀に残る「城跡」を紹介します。

敦賀市内にはいくつかの山城跡と平城跡があり、周辺にはさらに多くの山城跡、砦や城砦群があります。（左図）

金ケ崎城は、金ケ崎緑地の背後にある丘陵部に築かれた山城です。源平合戦の時、平通盛が木曾義仲との戦いに備えて築いたのが最初と伝えられ、南北朝の時代に新田義貞が尊良・恒良親王とともに籠城し北朝側と対峙した場所です。戦国時代、朝倉氏の居城となっていましたが、織田信長の越前攻めの時に支城であった**天筒山城**とともに落城しています。この後、信長が撤退して「金ケ崎の退き口」として有名になった場所です。

敦賀城は、豊臣政権下で敦賀を領した蜂屋頼隆が現・三島町、結城町一帯で築城に取りかかり、その後を受け継いだ大谷吉継が完成させた城です。三層の天守閣を備えた城だったと伝えられています。

玄蕃尾城は、本能寺の変の後、柴田勝家と羽柴秀吉との間で織田信長の後継者争いが起こり、賤が岳合戦で対峙した時に柴田勝家が本陣にした城です。敦賀と滋賀県の境の柳ヶ瀬山（標高約４６０ｍ）に、東西約１５０ｍ、南北約２５０ｍの規模で築かれ、国の史跡に指定されています。土塁や堀などの遺構が当時をしのばせる形で残っていて全国的にも人気の場所です。

疋壇城は、戦国時代、朝倉氏が越前南端の防衛拠点として、配下の疋壇氏に築かせたと考えられています。現在、天守台の他、堀跡や石垣の一部が残っています。

この他にも、国吉城跡、木の芽峠城跡を始め多くの山城跡や砦の跡が近郊にあります。

小浜線に乗ってそれぞれの駅から城へと案内する**「若狭路城跡めぐりガイドブック」**を福井県が作成し、小浜線主要駅や県内観光案内施設に配備、県のホームページでも確認できます。天気が悪い時期には事前に確認しておき、天気が良い時期なればご家族で出かけてみませんか。（将）

敦賀の『みどころ』修学旅行

前号で、県内の小中学校などからの教育、研修目的のガイドの依頼が例年以上にあることをお伝えしました。県の調査で県外からの修学旅行の人数がコロナ禍の前の５倍に達したとの報道もありました。

県の調査では、修学旅行の県外からの受け入れ数について、２０２１年は、小中高校を合わせた学校数で86校となり、コロナ禍前の２０１９年の12校から大幅に増え、また、人数でも約１万５千人となり、19年の約３千人から５倍となったとのことでした。

ガイドつるがにも、教育、研修目的のガイドの要請が増えていましたが、12月初旬、隣の滋賀県の小学校から修学旅行のガイドの要請がありました。これまで広島や長崎に平和研修を目的にして修学旅行を行っていたが、コロナ禍で近隣県での候補地を検討している中で「敦賀ムゼウム」で研修する事になったとのことでした。

研修目的の修学旅行ですから、楽しく学べるようにと事前の打ち合わせを何度も行いました。ガイド６名で約１２０名の生徒さん達を順番に各所を案内するように調整し、丁寧に説明することができ生徒さん達は真剣に聞いてくれました。

最後に生徒さん達がメッセージボードに書いていたのは、「平和が大切」、「戦争は嫌だ」、「大切な命」などの言葉でした。

教育旅行の対応は、丁寧に楽しく、平和の大切さを伝えていきたいと思います。

先進地視察研修

11月11日、福井県観光ボランティアガイド連絡協議会主催の「先進地視察研修会」に参加しました。

県下各地のボランティアグループ11団体、54名が三国町に集合して、５つのコースに分かれてバスに分乗して出発しました。あいにく風雨が激しく寒い一日でしたが私の選んだ「きたまえ通りコース」は屋内での説明も多くあり、三国湊の繁栄をゆっくりと偲ぶことが出来ました。

持に、大正９年に建てられた旧森田銀行は、敦賀の旧大和田銀行と同時代の文化財であり、湊町の共通点を感じました。また、市内の建物のいたる所で「笏谷石」が使用され、その昔、福井から九頭竜川を舟運で三国湊に下り、北前船で全国に運ばれた事が偲ばれました。

三国と敦賀は湊町という点で共通点も多いのですが、その後、特色を分けたものは鉄道の敷設であり、このことによって三国は「北前船の湊町」になり、敦賀は「鉄道と港の町」になって、それぞれの時代を担ってきたのではないでしょうか。

今回の研修において、それぞれの町の歴史的な役割があった事を知ることが出来ました。

（浜 康行）

鉄道カフェと現地研修

ガイドつるがでは、「港と鉄道の街つるが」を広く市民の皆様に知っていただくことを目的に、２０１４年度から「鉄道カフェ」を開催しています。

本年度第２回目となる鉄道カフェを10月23日に、第３回目を11月13日に、松原公民館にて開催しました。

第２回鉄道カフェは、「新幹線がやってくる～建設工事から～」と題して、北陸新幹線建設局敦賀鉄道建設所の柏木亮所長から話を伺いました。

敦賀開業に向けた建設工事の内容や進捗状況、鉄道トンネル工事の歴史について説明があり、また、線路の設置の手順、敦賀駅の構造、中池見湿地の保全対策、北陸線特有の雪害対策など幅広い内容について説明いただきました。

参加者からは、トンネル掘削工事の精度の高さの驚きや敦賀駅の乗換えの構造にかかる質問や意見がありました。

第３回鉄道カフェは、「敦賀に残る鉄道遺産」と題して、敦賀市市立博物館の高早恵美館長補佐から話を伺いました。

博物館の古地図や写真で明治から昭和にかけての鉄道の様子を紹介いただき、また、敦賀市内に残る鉄道遺産などの説明がありました。金ケ崎付近の水路や港線のあった場所などで今も残る鉄道の痕跡や、古い写真から杉津駅にあった庭園の紹介など分かりやすい説明がありました。

今後の鉄道遺産の保存にかかる意見も出され、有意義な講演会になりました。

また、11月10日、今後の新幹線関連のガイドの内容やコース検討のため、新幹線の敦賀駅やトンネルの周辺設備などの建設現場の視察研修を行い、敦賀鉄道建設所の柏木所長にご案内いただきました。

今後のガイド活動に生かしてまいります。

ガイドの活動と楽しい出来事

ガイドつるがの会員は、観光客の皆さんへのご案内等を行いながら、楽しい出来事も沢山経験しています。

今回は、倉谷長武会員のエピソードをご紹介します。

氣比神宮のガイドをすることになりました。コロナ禍でガイドのキャンセルが続き、私にとっては、実に１年ぶりのガイドでした。到着を待ちながら、どこでどんな説明をするのかを事前検討。大鳥居の前では大きな音でライブが行われていて、説明の声がかき消されてしまう。資料も一人ひとりに手渡していたら時間のロスになるなど、懸念材料も出てきました。それで大鳥居の説明は、見上げてもらった後に、そこをくぐって境内に入ってから説明する、資料は引率者にバスの中で配ってもらうことにしました。

案内している内に不思議なことに長いブランクにもかかわらず、すらすらと要所要所で説明が波に乗り、と行きたいところです。が、氣比宮司の旗かけ松のくだりで南北朝の説明に難渋してしまいました。普段は説明しない建武の中興の話から入ったからです。にっちもさっちもいかなくなりました。逆に芭蕉の銅像の前での説明で、「遊行の持てる砂の上」・・・遊行上人の話をして、遊行寺は藤沢市にある遊行寺坂付近にある時宗の総本山です。正月の箱根駅伝でこの坂が出ますから覚えていてください。・・・これは皆さん関心を持ってくれたぞ、しめしめと思いました。

限られた時間にいかに印象に残るガイドをするかが大事なところです。今回のガイド自己採点では、１００点満点の５０点。これではあまいかな。

（倉谷長武）